

ENEOS 和歌山製油所が持続可能な航空燃料の製造に関する 事業化調査の対象製油所に決定したことに関する市長コメント

本日、ENEOS 株式会社と TotalEnergies が、ENEOS 和歌山製油所を、持続可能な航空燃料（SAF）の製造に関する事業化調査の対象製油所に決定し、また、両社が SAF 製造の合弁会社を設立する予定である旨の発表がございました。

本年 1 月 25 日の和歌山製油所機能停止の報を受け有田市には激震が走りましたが、その後 ENEOS 株式会社には地域の声を真摯に受け止めていただき、およそ 10 か月で、次世代の航空燃料である SAF の製造という新しいチャレンジをしていただけることが決まりました。地域と共存する企業として前向きに検討いただき大変うれしく、ありがたく感じています。

航空分野の CO₂ 排出量削減のため、SAF の需要は今後ますます高まると見込まれており、SAF 製造は将来に向かって発展していく可能性のある事業だと受け止めています。カーボンニュートラルの実現に向けた産業構造の転換に対応する新たなエネルギー製造が有田の地で始まることに、大いに期待しています。有田市としても、事業の実現に向けてあらゆる面で支援・協力してまいります。

令和 4 年 11 月 24 日

和歌山県有田市箕島 50 番地
有田市長 望月 良男